

～医療生協健文会の職員のみなさま～

メロス通信 不定期便



Vol.02

2022年12月号

発行：地域福祉室

～医療生協組合員活動と医療・介護事業は「命と健康を守る両輪」です～

今回は、職員と医療生協組合員さんとの関係が「命と健康を守る両輪」であることを山陽小野田市の活動からご紹介します（次回は宇部）メロスがアウトリーチによって知ることができた組合員活動の姿です。

組合員の出会いに救われたAさん



「ある男性」を孤独にさせないために組合員さんの力で生まれた「お結びの会」は小野田診療所からはじまり他の支部に広がる憩いのサロンとなりました。小野田診療所の「お結びの会」では組合員同士の支えあいと地域の見守り活動を行っています。Aさんはその「お結びの会」で地域に気になる人がいると声が上がっていた方でした。ある日、「Aさんの電気が止められた」と組合員さんからメロスに電話が入ります。その組合員さんと一緒に自宅に訪問すると、Aさんは膝が悪く一人で外出もままならず買い物やお金の管理が難しくなっていることが分かりました。すぐに3階病棟に入院してもらい膝の治療と生活の立て直しを図ることになりました。入院中は家族を頼ることができないAさんを組合員さんと共に家族になりかわり支援しました。そして退院後、凄いことが起こりました。Aさんを支援してきた組合員さんは、他の組合員さんと一緒に週1回の「スーパー買い物ツアー」を組織します。Aさんだけでなく他の一人では買い物に行けない組合員さんのために「組合員による、組合員のための買い物支援」を始めたのです。このツアーをみんな楽しみにしているそうです。

★レモンカフェの組合員さん



* 右から4番目中央の男性がSさん

レモンカフェから地域を見守る Sさん

旧・ディサービスたんぼぼの施設を利用して組合員さんがカフェを始めました。マスターのSさん。今まで地域の見守りをしてきたSさんの「もっと広く見守りたい」という思いを仲間がカフェにしたのです。レモンカフェは第3木曜の午前、Sさんの庭にある立派なレモンから名付けられました。患者さんにとって医療や介護だけでは埋められない「心の健康」があります。人とつながり自分で選択して生きていくという「自由」や「生きがい」を支援できるが地域の力です。医療生協組合員活動はその力であり私たち職員の活動と一对になる「命と健康を守る両輪」であることを痛感します。

県連ソーシャルワーク委員会報告

「生活支援ハウス」とは自治体が運営する施設で「満60歳以上のひとり暮らしの方、夫婦のみの世帯に属する方および家族による援助を受けることが困難な方で、高齢等のため独立して生活することに不安があり、家庭環境・住宅事情・経済状態などの理由により自宅での生活が困難な方」を対象にしています。宇部市に6つあるこの生活支援ハウスですが、身寄りがいない方が入居できる施設は2つしかありません。「そもそも自治体の措置で行われる事業が身寄りのない方に入居制限を設けることはおかしい」と在宅介護支援センターの佐々木課長は言います。このように「身寄りがいない方」への対応はそれぞれの分野で大きな問題になっていますこれからの医療・介護の重要課題として捉えておく必要があります。



みなさまからたくさんの寄付を頂いています。ありがとうございます。

～年末年越し食料支援～

2022年12月18日開催！

お米一合の
カンパを！

はじめに年末年越し食料支援へのご協力、大変ありがとうございます。みなさまからの温かいカンパと物資が続々と届いております。今年は物価高騰と光熱費の値上げから地域福祉室と職員ボランティアで無料低額診療の患者さんを中心に食料をご自宅まで届けることになりました。対象は25世帯40人ほどになりそうです。事前のご案内ではみなさん大喜びです。無料低額診療は生活保護基準一歩手前、場合によってはそれ以下の方々の「受療権」を守る取り組みです。食料支援だけでなく私たちの「こころ」をお届けしたいと思っています。なおコロナの感染状況によっては職員のみボランティアになります。また余った食材・カンパは他の食料支援に回す予定です。

引き続きボランティアも募集しています。みなさまのご協力をお願いします！